

優秀賞（国土交通事務次官賞）

△作文（中学生）の部▽

『ぼくたちの安全のために』

東京都新宿区立牛込第三中学校 二年 竹内 翔

土砂災害は、台風の大雨、地震、火山活動などが引き金となって、毎年のように全国で発生しており、ぼくたちの生活に大きな被害をもたらすことがある。また、新たな宅地開発が進むにつれて、土砂災害の発生する恐れのある危険な箇所も年々増加している。こういった危険にさらされやすい環境から、命や財産を守るため、土砂災害対策工事等と併せて、危険性のある区域を明らかにしたり、危険箇所への新規住宅等を建てることを抑制する「土砂災害防止法」がある。また、ぼくの住む新宿区には、土砂災害警戒情報も含まれた、防災気象情報メール配信サービスがある。

ぼくたちの生活を脅かす土砂災害が起こらないように、また、もし起きてしまつて生活に被害を被らないように、自然に手を加えて人工構造物などをつくつて対策をたてている。それを砂防という。

今年の夏休みに、日光の砂防施設を訪れた。一九九九年に世界遺産登録されている「日光の社寺」をはじめとした貴重な文化遺産、豊かな自然。それは、自然災害が起こりやすい日光の地形や気候を知りながら、日々土砂災害対策を考えて備え、守られている。

土砂災害には、主に三つの災害（土石流、地すべり、がけ崩れ）があり、対策として以下のような砂防施設がある。

ぼくは、大谷川床固群を訪れた。

大谷川は、中禅寺湖から流れる華厳の滝が源で、男体山（なんたいさん）、大真名子山（おおまなこさん）、女峰山（によほうさん）などを削り、多くの土砂を下流に流し、大谷川本川の扇状地面を形成、床固群は、洪水などの被害を防ぐために、川の流れを緩やかにして、水の流れを安定させ、洪水を防ぐ。「魚道」や観水広場も整備されていて、川に親しめるよう工夫されている。砂防施設は他にもたくさんある。

砂防堰堤は、川の上流につくられ、たくさん山の土や砂が水とまじつて流れ出す土石流を防ぐための施設だ。水を貯めるダムと異なり、川の土や砂を貯め、貯まった土砂を少しずつ川に流し、流れを遅くして川底や、川岸が削られるのを防ぐ。

山腹工は、地すべりやがけ崩れで緑の少なくなった山に対し、柵などで地面を安定させて木を植え、雨などで地面が削られるのを防ぎ緑豊かな山にする。

危険を素早く知り、安全に避難できるように、土砂災害対策室や、雨量観測所テレメータ、土砂観測スクリーンなど様々なかたちでぼくたちの暮らしを守っている人がいる。

では、土砂災害から身を守るためにぼくたちができることは何だろうか。

「山地災害危険地区」の看板には、このようなことが記されている。

山地災害危険地区では、大雨などの気象情報に注意し、避難経路や避難場所の確保など日頃からの心がけが大切である。危険信号をキャッチしよう。今まで枯れたことのない谷川の水が止まった。普段住んでいる谷川の水が濁った。谷川の水が急に増えた。このような危険信号は、土石流発生の兆候。最後に、危険信号をみつけた時の連絡先電話番号が記されている。

ぼくたちができることは、まず「山地災害危険地区」の看板に注意すること。それから、ホームページでも公開されている「土砂災害ハザードマップ」が役に立つ。ハザードマップは自分の住んでいる地域の危険箇所を確認することができる。さらに、土砂災害の発生のおそれのある箇所や区域を地図で明らかにするとともに、土砂災害の知識や避難経路などの情報が記載されている。

ぼくの住む住宅は、新宿区の高台にある。マップ上にはがけ崩れの可能性を示す印がついていた。ぼくが住んでいる新宿区にも土砂災害の危険がある場所が存在することを知った。また、もう少し具体的に書いてみると、土石流はとても流れが速い。土砂の流れと同じ方向に逃げているは、追いつかれてしまう。そこで流れに対して直角方向に逃げると良いことも覚えておくと良いだろう。

日頃から、危険箇所や避難経路を確認していざとなったら「早めの避難」を心がける。家族が離れてしまった時の対策として避難場所を決めておくと良いと思う。

砂防設備を整備し、防災情報を提供し、避難対策をたて、様々な方策で土砂災害からぼくたちの安全は守られている。土砂災害はぼくたちの身の回り起こりうる災害だ。ひとりひとりが関心を持ち、日々備えることが大切だと思う。